

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和
8年
5月

新緑が気持ちいい季節です。いっぱい太陽を浴びて、たまにはリラックスをするのもいいですね。さて、今月もNewsletter 第93回配信です。

【診療科紹介 緩和ケア科】

医学生のみなさん、今回は自治医科大学附属病院の緩和ケア科を紹介します。

患者さんのつらい症状をやわらげ、その人らしい人生を全うできることをめざして、QOL（生活の質）をより高い状態に保ちつつ尊厳ある終末を迎えることができるよう、疼痛管理をはじめとする専門的な緩和ケアを提供しています。入院や外来でのコンサルテーションを受け、抗腫瘍治療中の方をも含む患者さんのからだところのつらさをやわらげ、その後の療養場所の調整などを行なっています。

緩和ケアチームとして緩和ケア医、精神科医、麻酔科医、歯科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、管理栄養士、作業療法士、歯科衛生士等が多職種で協力し活動していることが当院の強みです。

当科をローテートすることで、将来どの診療科を専攻しようと必ず役に立つ、疼痛やその他の症状の緩和・コミュニケーションスキル・予後予測等を多面的に学ぶことができます。大学病院ゆえコモンな疾患から稀な悪性腫瘍まで、さまざまな病気をかかえた患者さんに寄り添い診療する機会があります。みなさんと研修でお会いできるのを楽しみにしております。

写真はある日の多職種カンファランスの風景になります。



【医師国家試験予想問題】

●がん疼痛にモルヒネを用いる際、耐性がみられる有害事象はどれか。

- a 悪心
- b 便秘
- c せん妄
- d 口内乾燥
- e 呼吸抑制

正解：a

設問のねらい

オピオイド開始初期から出現する有害事象（副作用）には悪心・嘔吐、眠気、便秘、口内乾燥、せん妄、呼吸抑制などがあります。これらのうち悪心や眠気は通常早期に耐性が生じるといわれています。

（耐性：薬物に暴露されることにより生じる生体の適応状態）

一方、便秘は耐性が生じにくい症状とされ、オピオイドを服用している間は便秘が続く患者さんも少なくありません。オピオイド内服を開始する際には便秘対策として下剤を併用します。オピオイド誘発性便秘症（Opioid Induced Constipation）という概念が提唱されているので学修しておきましょう。実際の下剤の選択にあたっては患者さんの腎機能やコストベネフィットなどを勘案して処方します。

選択肢の解説

○a 悪心：通常 1 週間程度で消失するとされています。悪心が生じやすい患者さんには、嘔吐が生じる前に制吐薬の予防投与を行います。

×b 便秘：オピオイド誘発性便秘症は耐性を生じにくいとされています。

×c せん妄：がん患者さんは薬物やそれ以外の原因でせん妄を生じます。薬物のなかではオピオイド以外に、ベンゾジアゼピン、抗コリン薬などが原因になります。

×d 口内乾燥：オピオイドの抗コリン作用により口内乾燥がみられます。

×e 呼吸抑制：オピオイドが用量依存的に延髄の呼吸中枢を抑制することにより生じます。疼痛治療に必要な量を上回る過量投与の際に起こりえます。オピオイド拮抗薬であるナロキソンも学修しておきましょう。